

東北復興 PSW にゆうす

新年あけましておめでとうございます。

今年で、あの震災から8年目を迎えます。この間、たくさんの縁に恵まれ、そのつながりが支えに、力になっています。それらの縁に感謝しながら、これからも現地の声や状況を、一つひとつお届けして参ります。

リレーメッセージ



「仮設住宅ソーシャルワーカー室の活動を振り返って」

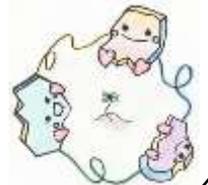
(公社) 日本精神保健福祉士協会 福島県支部
副支部長 松本マチ子 (針生ヶ丘病院)

福島県中地区の相談支援専門職チームの活動の一つとして、2012年1月から郡山市富田町仮設住宅内のソーシャルワーカー室の活動に参加しました。郡山地域には、相双地域から原発避難により借り上げ住宅で避難生活を送る方も多く、当院への受診や入院に繋がりに関わることもありましたが、仮設住宅が同じ地域にある中で、一人のソーシャルワーカーとして何かしなければならないとの強い想いがありました。

災害時だからといって特別なことができるわけではなく、それまで行なってきたソーシャルワーカーの実践の中で築き上げてきた、人間関係や経験知が生かせるのであり、普段からの行政機関や事業所、医療機関同士の繋がりが大切なことであると改めて感じました。

また、医療機関の枠を超えた支援は初めての経験であり、枠のない、しかも「原発による被災」という現実の中で起きている問題は初めて関わるケースばかりでした。仮設住宅で生活することを強いられ、避難が長期化し、先の見えない生活の中での不安や不満の声を傾聴し理解したいと思い、何度か訪問させていただいた方は、当初は原発の爆発に対する国や町への不満を攻撃的に話されていましたが、徐々に受け入れて自分が何をすれば良いのかと前向きに考えられるような変化を感じることができました。また、料理が上手で差し入れを持ってきては仮設住宅の住民のことや、原発のことなど話していた方が徐々に抱え込んでいた家族の問題を相談するようになりました。住人の生活や思いに寄り添う姿勢で関わり続けた、ソーシャルワーカー室の活動の意味があったのだと思います。家族の問題は原発避難がなければ起こらなかった問題です。急激な環境の変化、人間関係の分断、原発の賠償金がどれだけ人の心に大きく影響を与えたのかは、計り知れないことだと思いました。

仮設住宅で生活する方達が減少し、復興公営住宅での生活が続いている中でソーシャルワーカー室の活動は終了しましたが、また形を変えて支援できればと思っています。



★募集★「東日本大震災復興支援」助成金交付申請（第13期）

本協会では、東日本大震災復興支援事業の一環として、都道府県精神保健福祉士協会等による復興支援活動の経費を助成しています。第13期申請受付期限は、2018年2月28日（水）（当日消印有効）です。交付申請書に必要事項をご記入のうえ、本協会事務局宛てにご郵送ください。

<http://japsw.or.jp/backnumber/oshirase/2018/0105.html>

～2018年 新年に寄せて～



東日本大震災復興支援委員会
委員長 福井康江

東日本大震災から間もなく7年が経とうとしていますが、今年、2018年度は復興・創生期の中間年となり、復興期間終盤の非常に重要な年度になります。復興の言葉を抱えながらの歳月の長さを日々実感していますが、その時間の中で変わりたい思い、変わりがたくない思い、変わらざるを得ずに抱える苦しみ、を伺うことがあります。また、そうした思いさえもまだ話すことが出来ずにいる方、聴いてもらう相手もないという方、そういった方々と出会いながら、私自身未だにできることを模索している状況ではありますが、この1年が被災地にとって新しい未来を見据えることが出来る年となることを、心から祈念したいと思います。委員会としては、新たな活動の方向性も検討しながら、今年も被災地からの情報発信と復興支縁ツアー、福祉事業所支援等を行うこととしております。

被災地の復興に向け、委員会共々引き続き皆様方からの温かいお気持ちを賜りますようお願い申し上げます。



石巻市・日和山から望む日の出

当施設は定員30名、登録者49名で日々30数名の方々が通所しています。主に受託作業、喫茶業務、菓子製造を行っており、お菓子は施設の馴染みの味となっているみそぱん、味噌クッキーの他、シフォンケーキ、どらやきなど和洋多種類を毎日製造し販売しています。

震災では施設自体は被災を免れ、割と早くに稼働を再開していました。その際には全国の方々に施設の商品を購入いただき助けられました。改めて御礼申し上げます。それまで県外の販路について意識したことがありませんでしたが、遠方からも注文を頂くことで、私たちの少しの自信につながってきました。日本精神保健福祉士協会協会の皆様にも大船渡に直接足を運んで頂いたり、毎年、全国大会で物販コーナーを設けて頂いたりと継続してのご支援ありがとうございます。利用者の中には、震災直後は環境が激変し体調を大きく崩された方もいました。一時期は施設で避難生活を送る方もいました。あれから7年が過ぎようとする今、一人ひとりが何度も環境の変化に対応しながら、徐々に生活に落ち着きを取り戻しつつあります。

皆さまのおかげで、利用者、職員ともに前向きな気持ちで仕事に取り組んでいるところです。

全国大会で物販に製品を提供している「星雲工房」(就労継続支援B型/岩手県)戸羽幸枝さんのコメントをご紹介します♪



★お知らせ★ - 今年もやります!復興支“縁”ツアー -

時間と共に薄れる記憶と感情。それは自然のことかも知れませんが、意識して見えるもの、気付くものもあります。今年のツアーは岩手で開催!現地であくさんの“縁”を育みましょう(詳細は別紙参照。申込期間が大変短くなっております。お早目のお申込みをお待ちしております)。

【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しています。FAX もしくは E-mail: office@japsw.or.jp にて皆さまのお声をお聞かせください。

★題名に「PSWにゆうずについて」とご記入をお願いします。★

第32号 2018年1月15日発行

発行:公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL: <http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>